

# 大規模産地の未来を担う経営感覚に優れた 青少年の育成

県西農林事務所結城地域農業改良普及センター

普及センターでは、4Hクラブ（後継者クラブ）員をはじめとした若手農業者の技術力・経営力向上の支援をしています。特にプロジェクト活動指導については「クラブ員自身の経営向上に直結する課題」「地域波及性のある課題」とし、4Hクラブ担当と、各技術担当が共に取り組んでいます。その結果、管内のクラブ員が、平成29年度と30年度の2年連続で茨城県農業青少年プロジェクト実績発表会の最優秀賞を受賞しました。

## 記録からはじめる和牛雌牛の繁殖改善

鬼怒4Hクラブ員の高嶋英二氏は、就農当初は和牛雌牛の繁殖管理について知識がなく、繁殖がうまくいかない状態でした。高嶋氏は、和牛雌牛の発情を観察、その状態を記録して「発情の見える化」を実行しました。記録はマニュアル化してわかりやすくすることで、発情徴候を判断できるようになりました。さらに牛の人工授精にも挑戦して、授精適期に種付けを行えるまでになりました（写真1）。高嶋氏の畜産経営は、繁殖成績が改善したことで生産コストを1頭当たり約32,000円削減できました。



写真1 母子2世代にわたり自家授精に成功



写真2 新たに導入したネギの収穫機械

## 夏作の品目大転換

結城市農村青少年クラブの菅井渉氏は、露地野菜を中心とする経営の中で、調製作業負担の大きいアスターに代わる夏期品目を模索していました。そこで、機械化による作業効率化が可能で、価格も安定している夏どりネギへ、アスターの全面積を転換しました。先進農家を参考に換気等の管理を徹底した結果、出荷後半では目標数量を達成し、初期費用を1年で回収することができました。また、機械化により作業時間が短縮され、定休日を毎週設ける等、働き方改革も実現しました（写真2）。

## 2年連続最優秀賞受賞

普及センターの支援により、高嶋氏・菅井氏は平成29年・30年の茨城県農業青少年プロジェクト実績発表会で最優秀賞を受賞しました。高嶋氏は平成31年2月開催の全国青年農業者会議へ出場して全国農業青年クラブ連絡協議会会長賞を受賞、菅井渉は令和元年8月開催の関東ブロック大会へ出場（写真3）するなど、他の若手農業者にも良い刺激となり経営改善への機運が高まっています。



写真3 受賞者（左：高嶋氏、右：菅井氏）